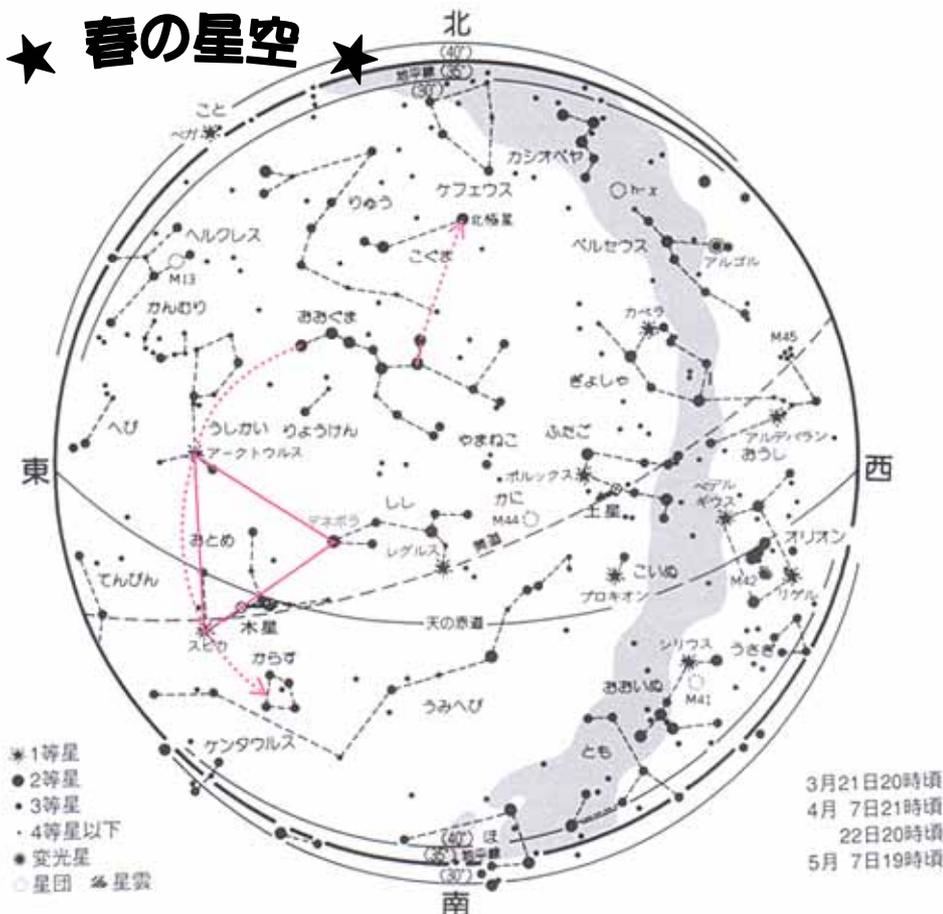


★ ラインナップ ★

春の星空
南十字星にあいたい！

春の穏やかな風になびく星々 ~かみのけ座~
プラネタリウム“こよみ・今昔 -1年は365日?-”

★ 春の星空 ★



陽気に誘われてしし座やおおぐま座が空高くへのぼってくると、夜空も春色に変わってきます。春の星座とともに“木星”が輝く星空に、目印となる大きなカーブと三角形を描き出していきましょう。

北の空には、おなじみの星の並び「おおぐま座」の『北斗七星』が見つかります。冬の間は北の空の低いところに姿をみせていた北斗七星も、この季節は空高くへと昇って、七つの星が作るひしゃくの形もいっそう目立ってきます。春は北斗七星が明るい星や北極星へ導いてくれるのですが、その前に、ひしゃくの柄の先から2番目の星を見てみましょう。この星は2等星《ミザール》。目の良

い人ならミザールのそばにもう一つの星《アルコル》が見え二重星だとわかるはずです。

さて北斗七星を頼りに明るい星を見つけていきましょう。ひしゃくの柄の部分のカーブにそって先へずーっとのぼしていくと、『春の大曲線』と呼ばれる二つの明るい星を通る大きなカーブが描けます。春の大曲線上にある最初の星が「うしかい座」の《アークトゥルス》、次が「おとめ座」の《スピカ》。どちらも明るい1等星ですが、よく見るとアークトゥルスはオレンジ色、スピカは純白に輝き、星の色が違って見えます。これは星の表面温度が違うためで、アークトゥルスは約5000度、一方のスピカは20000度以上もある高温の星なのです。さらに春の大曲線を先へとのぼしてみると、四つの星が四角形に並んだ「からす座」にたどりつきます。このあたりには明るい星があまりないので、からす座は簡単に見つかります。

今度は、星空に大きな三角形を描きましょう。三角形をつくる三つの星のうち二つはアークトゥルスとスピカ、もう一つは「しし座」の2等星《デネボラ》。ちょうど正三角形をつくるように、おとめ座から北西の方に輝いています。この三つの星がつくる大きな三角形が『春の大三角』です。デネボラから少し西に離れたところには、“ししの大鎌”と呼ばれる草刈り鎌の形やはてなマーク(?)を裏返したような星の並びがあります。これがししの頭から腰の部分にあたり、そのなかで一番明るい星が1等星《レグルス》、心臓のあたりに輝きます。しし座の西隣にある「かに座」は暗い星ばかりであまり目立ちませんが、有名な散開星団『プレセペ：M44』は見ておきましょう。

春の穏やかな風になびく星々 ~かみのけ座~

春の星座のなかにはちょっと変わった星座があります。その名も「かみのけ座」！髪の毛が星座になっているって不思議な感じがしますね。いったい誰の髪の毛なのでしょうね？

この星座には、2000年以上前、エジプトを支配していたプトレマイオス朝のプトレマイオス3世と王妃ベレニケによる史実に基づいた伝説が残されています。プトレマイオス3世率いるエジプト軍がシリアとの戦いに向かった時のことです。戦前から不利が予測されていたため、心配したベレニケは美の女神アフロディテ（ヴィーナス）の神殿で、勝利と引き換えに美しいと評判の髪の毛をささげると誓ったのです。やがて届いたエジプト軍大勝利の知らせに、約束どおりベレニケは髪をバツサリと切ってささげたのですが、不思議なことに髪の毛は突然消えてしまいました。王が帰ってきて、一緒に見上げた夜空には美しい星々が「かみのけ座」となって輝いていたと伝えられています。



こんな伝説を聞いたら、見ないわけにはいきませんね。月明かりや街の光が届かない暗い夜空で、しし座とうしかい座の間を眺めてみましょう。すると淡い星が集まってポヤッと輝く光芒が見つかります。双眼鏡を使えば、その視野いっぱい星屑が広がって見えるはず。これが、“Mel. 111 (メロッテ・カタログ111番)”という散開星団によってつくられている「かみのけ座」の正体です。

また、「かみのけ座」は“宇宙の覗き窓”としても知られています。このあたりは、銀河からもっとも離れたところで遠くからの光を邪魔するものも少なく、まばらな星々の間から遥か彼方の宇宙の姿を見ることができるのです。特に有名な『かみのけ座銀河団』は800個以上の銀河が集まった大集団で、およそ3億光年先の宇宙の姿を見せてくれています。他にもおとめ座からかみのけ座にかけては、小型の望遠鏡でも見ることのできる銀河が10個以上もあり注目です。

★ 南十字星にあいたい! ★

春の星座といえば、おとめ座、しし座...etc、と見どころいっぱいですが、実は、あの憧れの“みなみじゅうじ座”も春に見ることができるんです！...けれどいったいどこに見えているんでしょう？

どこに見えてるの？

みなみじゅうじ座はとても小さい星座です。けれど赤や青の明るい星からなる美しい十字の星の並びはとても目を惹き、たくさんの人たちに人気があります。どちらかというと、“みなみじゅうじ座”というより“南十字星”という方が馴染み深いという人が多いかもしれませんが、どちらも同じ星の並びを指します。

その可愛らしさからかとして



も人気のある星座ですが、でも本物の南十字星を見たことがあるという人はとても少ないはず。なぜかという、ずっと南の低いところにあるため、日本のほとんどの場所では地平線の下に隠れて見えないからです。でも日本でも、南端の島・沖縄の八重山諸島あたりまで行けばその姿を見ることができます。もちろんオーストラリアなど南半球へ行けば、ばっちり！ なのでわざわざ南半球まで見に行ってしまう人も少なくないようです。

サザンクロス

その名の通り、南十字星は“南にある十字架”ですが、その反対の北の空にも十字架があります。そう、夏になると頭の真上に昇ってくる“はくちょう座”です。明るくとても大きな十字架は、夏の夜空の目印ですよ！ この2つの十字架は、実は宮澤賢治の「銀河鉄道の夜」にも登場します。「銀河鉄道の夜」は、主人公ジョバンニとその友人カムパネルラが天の川に沿って走る銀河鉄道に乗り旅をする物語ですが、その出発点となるのが「はくちょうの停車場(北十字)」そして終着駅が「サザンクロス(南十字)」なんです！ 実は、北と南、2つの十字架を旅する物語だったんですね。

ニセモノ発見！？

ところで南十字星のすぐ側には、実はもうひとつの十字架があります。その名も“ニセ十字”。南十字星のやや南側にあるこの十字架は、本物よりもちょっと大きく目立つため、間違える人が多いんだとか。なので、本物とニセモノを間違えないために、南十字を探すための目印がちゃんとあるんです。これがサザンポインターズと呼ばれる星たち。ケンタウルス座の前足にある明るい2つの星(星、星)のことで、この2つの星を結んで、その間隔を2倍ほど西側に伸ばしていくと本物の南十字星にたどり着きます。ちなみにサザンポインターズはさそり座の尻尾から真っ直ぐ南に伸ばしていくとすぐに見つかります。これを知っていれば、はじめての南天の空でも安心ですね！

また南十字星自身もあるものを探す目印として使われています。それは天の南極です！ 実は天の南極には、北極星のような目印となる星がありません。なので、方角を知りたいとき、特に南半球を旅する船乗りたちは、方向を決めるときにはこの南十字星をとっても大切な目印として使ってきました。探し方は、十字架の長い方の棒(星から星にかけて)を5倍伸ばしていきます...すると明るい星もなく暗い部分が見つかりましたね。ここが天の南極です。ぜひチャンスがあれば探してみてくださいね。



南半球の星空

さて南半球の星空には、南十字星のほかにも有名な天体がたくさん見られます。例えば南十字星のすぐ東どなりには、他の部分に比べて暗く見える部分があります。これは「石炭袋（コールサック）」と呼ばれる暗黒星雲。ちりとガスの塊なので、その後ろにある星の光も通すことができず真っ暗に見えています。実はここは将来、たくさんの赤ちゃん星が誕生する場所。今は真っ暗でもいつかたくさんの赤ちゃん星が観測される日はそう遠くないのかもしれませんが。南十字星の西側には「エータ・カリーナ」と呼ばれる美しい赤い星雲があります。この星雲の中心にある星は太陽の100倍もの重さがあり、しかも非常に高温で明るく輝いています。あまりにもエネルギーが膨大なため、ときどき爆発を起こすほど。実際、約150年ほど前に起こした爆発では、大量の物質を放出したため、南天で最も明るい星のひとつになったという記録が残っています。

最後に忘れてはならないのが「マゼラン銀河」！ 天の南極を中心に大小2つの銀河が夜空にぼっかりと浮かぶ姿は、けして北半球では見られない貴重なもの。こんなに肉眼ではっきり見えていても、実はマゼラン銀河は私たちの銀河系の外にある別の銀河たちなんです。すぐお隣の銀河とはいえ、まわりで見えている星たちよりもずっと遠くにいる銀河がすぐそこに見えている... しかも大マゼラン雲のそばには、あの幸せを呼ぶといわれるカノープスも輝いている！ そんな幸せがいっぱい詰まった宝箱のような南天の星空、いつかは自分の目で見てみたいですね！

プラネタリウム春番組 3/12～6/5

『こよみ・今昔 -1年は365日?-』

私達がふだん生活する上で当たり前に使っているカレンダーって、いつ頃から使われているか知っていますか？ そもそも“こよみ”っていつ誰が作ったんでしょう？ また閏年(うるうどし)なんてややこしい年もあるけれど、いったいこれはなんのため？

今回はこんな“こよみ”にまつわる歴史やお話をわかりやすくご紹介します。もちろん春の星座たちも盛りだくさん！ 今回は春の夜空の王者・しし座にまつわるお話も紹介します。お楽しみに！

放映時間：10:30、13:30、15:00(約40分)

(都合により時間に変更になる場合があります)



< 編集後記 >

カキの食べ放題に行ってきました。食べるたべるわで数十個！ 冬は美味しいものがいっぱいで...

暖かくなったらたまったカロリーの消費だー！！ tomo

春は草木や花の香りがいちだんと強く感じられる季節。山の上もいろいろな香りが風によってやってきますよ！ 味覚の方もそろそろかなー?? Yumi

この博物館通信は、岡山天文博物館が作成しています。次回 夏号は7月ごろ 発行予定です。

岡山天文博物館 浅口郡鴨方町本庄 3037-5 TEL・FAX 0865(44)2465 休館日：月曜・祝日の翌日

博物館ホームページ <http://www.rweb.ne.jp/astro/index.html>